

2021年7月実施  
第15回  
農業簿記検定<sup>®</sup>  
2級問題

注意事項

トイレなど途中退出後の再入室は認めません。試験開始の合図の前までに済ませてください

- 1 試験監督員の指示があるまで、この問題冊子は開かないようにしてください。
- 2 試験中、下記の使用が認められたもの以外は、すべてカバン等にしまい、机の中又は、足元等指定された場所に置いてください。試験中、使用が認められるものは、次のとおりです。
  - ・筆記具（BまたはHBの黒鉛筆/シャープペンシル）・消しゴム・定規・ラインマーカー
  - ・電卓（基準に適合したものに限る。又は算盤）・時計（通信機能を有するものを除く）
- 3 スマートフォン等通信機器を使用することは認めません（時計の代わり又は電卓として使用も不可）。電源を切り、カバン等にしまってください。
- 4 試験監督員の指示に従わない場合、また、周囲に迷惑をかける等、適切な試験の実施に支障を来たす行為を行った場合には、不正受験とみなすことがあります。
- 5 上掲4の場合を含み、不正受験と認められた場合には、直ちに退室を命ずることがあります。
- 6 試験時間は、2時間（120分）です。試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 7 この問題冊子には、問題25問まで掲載しており、1頁から23頁まで印刷しています。  
試験監督員の指示に従い、頁を調べ、印刷不鮮明や落丁等があれば、挙手をして申し出てください。
- 8 解答は、別途配布した解答用紙（マークシート）に記入（該当番号の塗りつぶし）してください。
- 9 問題の内容に関する質問には、一切応じません。
- 10 退室可能時間は、試験開始後30分後から試験終了10分前です。  
※退出を希望する場合は、必ず挙手をして、試験監督員が解答用紙を確認し回収するまでは、席を立たないでください。一旦退出後の再入室は、認めません。
- 11 試験終了の合図とともに、直ちに、筆記具を置き、解答用紙を裏返してください。
- 12 試験監督員が解答用紙を回収し、受験番号や氏名等の記載内容を確認した後、退室可能を指示するまでは、席を立たないでください。
- 13 この問題冊子及び計算用紙は、持ち帰ることができます。解答用紙は、持ち帰れません。

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

監修 一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会

※“農業簿記検定<sup>®</sup>”は、一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会の登録商標です

**問題 1**

A農園では、実際個別原価計算を行っている。以下の指示書別原価計算表と仕掛品勘定および製品勘定を作成し、空欄（①）～（⑤）に入る金額として正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

1. 各生産指示書に関するデータ

	レタス	ブロッコリー	キャベツ
直接材料費	680,000 円	845,000 円	348,000 円
直接労務費	? 円	? 円	? 円
製造間接費	? 円	? 円	? 円
直接作業時間	235 時間	310 時間	128 時間
備 考	前期着手、 当期収穫・引渡	当期着手・収穫、 当期末未引渡	当期着手、 当期末未収穫

- 直接労務費については予定賃率を用いており、予定賃率は1,200 円/時間であった。
- 製造間接費は、直接作業時間当たり 950 円で各指示書に予定配賦を行っている。
- 期首仕掛品のレタスは 540,000 円であった。
- 期首製品のブロッコリーは 770,000 円であり、当期に引渡し済みである。

6. 指示書別原価計算表（単位：円）

	レタス	ブロッコリー	キャベツ	合 計
期首仕掛品原価	( )	—	—	( )
直接材料費	( )	( )	( )	( )
直接労務費	( ① )	( )	( )	( )
製造間接費	( )	( ② )	( )	( )
合 計	( )	( )	( )	( )
備 考	( )	( )	( )	

〔勘定〕（単位：円）

仕掛品

前期繰越	( )	製 品	( ③ )
材 料	( )	次期繰越	( )
賃金手当	( )		
製造間接費	( )		
	( )		( )

製 品

前期繰越	( )	売上原価	( ④ )
仕 掛 品	( )	次期繰越	( ⑤ )
	( )		( )

**【選択肢】**

	①	②	③	④	⑤
1	282,000	294,500	3,236,750	2,495,250	1,511,500
2	282,000	294,500	1,725,250	2,495,250	1,511,500
3	505,250	666,500	1,725,250	1,725,250	623,200
4	505,250	666,500	3,236,750	1,725,250	623,200
5	282,000	294,500	3,236,750	1,725,250	1,511,500

**問題 2** 以下の文章のうち、誤っている文章が一つある。その文章の番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. 材料の消費量の計算方法には、継続記録法と棚卸計算法がある。
2. 棚卸減耗とは、材料の保管中に何らかの原因によって数量が減少することをいう。
3. 棚卸減耗は、継続記録法であっても棚卸計算法であってもどちらの消費の把握方法であっても把握されることになる。
4. 材料費の計算における「消費価格」については、実際消費価格にかえて予定消費価格を採用することも認められている。
5. 実際消費価格と予定消費価格が異なれば材料消費価格差異という原価差異が発生する。



**問題 4** **問題 3** のBファームでは、原価のより詳細な把握のため、製造間接費差異について、更に予算差異と稼働差異に分析している。**問題 3** の内容における、①予算差異、②稼働差異の金額、また、③に入る言葉について、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

$$\text{稼働差異} = (\text{実際作業面積等} - \text{計画作業面積等}) \times (\text{③})$$

**【選択肢】**

	①	②	③
1	60,000 (借方差異)	20,000 (借方差異)	予定配賦率
2	60,000 (借方差異)	20,000 (借方差異)	固定費率
3	60,000 (借方差異)	20,000 (貸方差異)	変動費率
4	60,000 (貸方差異)	20,000 (借方差異)	固定費率
5	60,000 (貸方差異)	60,000 (貸方差異)	変動費率

当社は、肉用牛の肥育を行っている。以下の〔資料〕に基づいて、各問に答えなさい。

〔資料〕

1. 生産データ

期首仕掛品	30 頭
当期投入	<u>120 頭</u>
計	150 頭
正常仕損	3 頭
期末仕掛品	<u>12 頭</u>
完成品	<u>135 頭</u>

2. 原価データ(単位:円)

期首仕掛品原価

素畜費	600,000
加工費	1,386,000

当期製造費用

素畜費	2,640,000
加工費	12,457,800

3. その他の資料

- (1) 1 頭を完成させるために要する飼育日数は、210 日である。期首仕掛品となった肥育牛は 96 日の飼育日数が経過していた。また、期末仕掛品となった肥育牛は 132 日の飼育日数が経過していた。期末仕掛品となった肥育牛の素畜費は 264,000 円であった。
- (2) 素畜は始点で投入される。
- (3) 正常仕損は必要不可避の死産によって生じるものである。正常仕損の処理は正常仕損度外視法によっている。正常仕損になった肥育牛は飼育終了時に発生したものであるため、完成品のみ正常仕損費を負担させる。
- (4) 期末仕掛品の評価方法は先入先出法によっている。
- (5) 計算結果に端数が生じる場合には、円未満を四捨五入すること。

**問題 5** 当期の総飼育日数と当期の一頭当りの1日の加工費の正しい組み合わせを以下の選択肢から一つ選びなさい。

**【選択肢】**

	当期の総飼育日数	当期の一頭当りの1日の加工費
1	27,054日	@450円/日
2	27,054日	@453円/日
3	27,684日	@450円/日
4	27,684日	@453円/日
5	30,564日	@450円/日

**問題 6** 当期の期末仕掛品となった家畜の原価として正しいものを以下の選択肢から一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1	264,000円
2	712,800円
3	976,800円
4	1,245,780円
5	1,509,780円

**問題 7** 当期の完成品となった家畜の原価として正しいものを以下の選択肢から一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1	2,976,000円
2	13,131,000円
3	15,757,500円
4	16,107,000円
5	16,991,025円

**問題 8** 以下の資料に基づき、製造原価報告書と損益計算書の空欄 ( ① ) ~ ( ⑤ ) に入る金額として正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

(単位：円)

種苗費	
買掛金 1,180,000	仕掛品 1,180,000

肥料費	
前期繰越 185,000	仕掛品 ( )
買掛金 950,400	製造間接費 ( )
／	次期繰越 183,000
( )	( )

貸金手当	
預り金 56,000	未払費用 28,000
普通預金 630,000	仕掛品 ( )
未払費用 45,000	製造間接費 ( )
( )	( )

製造間接費	
肥料費 283,000	仕掛品 ( )
貸金手当 ( )	製造間接費差異 ( )
外注加工費 76,000	／
減価償却費 452,000	／
( )	( )

仕掛品	
前期繰越 460,000	製品 ( )
種苗費 ( )	次期繰越 759,000
肥料費 ( )	／
貸金手当 ( )	／
製造間接費 1,200,000	／
( )	( )

製品	
前期繰越 673,500	売上原価 ( )
仕掛品 ( )	次期繰越 985,100
( )	( )

売上原価	
製品 ( )	
製造間接費差異 82,800	

製造原価報告書

I	直接材料費		( ① )
II	直接労務費		( )
III	製造間接費		
	実際発生額	( )	
	製造間接費差異	( )	( ② )
	当期総製造費用	( )	
	期首仕掛品棚卸高	( )	
	合計	( )	
	期末仕掛品棚卸高	( )	
	当期製品製造原価	( ③ )	

損益計算書

I	売上高		4,500,000
II	売上原価		
	1. 期首製品棚卸高	( )	
	2. 当期製品製造原価	( )	
	合計	( )	
	3. 期末製品棚卸高	( )	
	差引	( )	
	4. 原価差異	( )	( ④ )
	売上総利益	( )	
III	販売費及び一般管理費		1,450,000
	営業利益	( ⑤ )	

【選択肢】

	①	②	③	④	⑤
1	1,849,400	1,200,000	2,981,600	2,670,000	380,000
2	1,849,400	1,282,800	2,670,000	2,670,000	380,000
3	1,849,400	1,282,800	2,981,600	2,752,800	297,200
4	1,180,000	1,200,000	2,670,000	2,752,800	297,200
5	1,849,400	1,200,000	2,981,600	2,752,800	297,200

**問題 9**

以下の〔資料〕に基づき、勘定科目精査法によって原価分解を実施した場合の①10a 当たりの変動費率と②年間固定費額の正しい組み合わせとなる番号を答えなさい。

**〔資料〕**

1. 当農園の肥料費は作付面積に比例して増減する原価であることが認識された。当期の肥料費は1,800,000円であった。
2. 当農園の作業員に対する労務費はすべて作付面積に比例して増減する原価であることが認識された。当期の労務費は4,500,000円であった。
3. 農業機械減価償却費は年間1,500,000円である。この農業機械減価償却費は作付面積に関係なく每期一定額発生する原価である。
4. 電力料は、基本使用料と作付面積に比例して変動する原価に分類されることになる。当期の電力総額は600,000円であり、そのうち年間基本使用料金は240,000円であった。
5. 燃料費は作付面積に比例して増減する原価であることが認識された。当期の燃料費は320,000円であった。
6. 修繕費は年間450,000円発生するものであり、作付面積に関係なく每期一定額発生する原価である。
7. 借地料は年間312,500円発生するものであり、作付面積に関係なく每期一定額発生する原価である。
8. 当期の作付面積は250aであった。

**【選択肢】**

- |    |                |              |
|----|----------------|--------------|
| 1. | ① 288,800円/10a | ② 2,262,500円 |
| 2. | ① 279,200円/10a | ② 2,262,500円 |
| 3. | ① 291,700円/10a | ② 2,190,000円 |
| 4. | ① 266,400円/10a | ② 2,822,500円 |
| 5. | ① 279,200円/10a | ② 2,502,500円 |

**問題 10**

次の取引につき、入金伝票、出金伝票、振替伝票を作成した場合において、それぞれの伝票に記載される金額の合計額として正しい組み合わせとなるものを一つ選びなさい。なお、3伝票制を採用しているケースを前提に考えること。

1. 野菜の苗 100,000 円を購入し、代金は掛けとした。
2. 野菜を 400,000 円で販売し、代金は掛けとした
3. 野菜を 50,000 円で販売し、代金は現金で受け取った。
4. 従来から使っていた軽トラックを 250,000 円で売却し、代金は普通預金に振り込まれた。
5. 掛け販売していた野菜の代金 400,000 円が普通預金に振り込まれた。
6. 農業用保冷庫の保守点検代として 120,000 円請求されたが、後日支払うこととした。
7. 刈払機 70,000 円を購入し、代金は現金で支払った。
8. アルバイトの賃金 50,000 円を現金で支払った。
9. 銀行から 1,500,000 円を借り入れた。この借入金は普通預金に入金された。

**【選択肢】**

	入金伝票	出金伝票	振替伝票
1	2,200,000 円	120,000 円	620,000 円
2	700,000 円	220,000 円	2,020,000 円
3	50,000 円	220,000 円	2,670,000 円
4	2,200,000 円	340,000 円	400,000 円
5	50,000 円	120,000 円	2,770,000 円

**問題 11**

次の取引につき仕訳をした場合における下記の記述のうち、正しい記述の組み合わせを一つ選びなさい。

X4 年 3 月 31 日にそれまで使用していた農業用トラクター（取得価額：3,000,000 円、償却率：0.143、償却方法：定額法、記帳方法：間接法、取得日：X1 年 7 月 1 日）を、1,500,000 円で下取りしてもらい頭金に充当し、新しい農業用トラクター（取得価額：4,000,000 円）を購入し、取得価額と下取価額との差額は月末に支払うこととした。（決算：年 1 回、決算日：12 月 31 日）

- ア. 借方で増加する機械装置の金額は 3,000,000 円である。
- イ. 借方に計上される減価償却累計額の金額は、1,179,750 円である。
- ウ. 借方で固定資産売却損が 320,250 円計上される。
- エ. 貸方で計上される未払金は 2,500,000 円である。
- オ. 貸方で固定資産売却益が 320,250 円計上される。

**【選択肢】**

1. アイ
2. アオ
3. イウ
4. ウエ
5. エオ

**問題 12**

A牧場は、年1回3月末決算の法人である。A牧場の当期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）の育成牛一覧表は以下のとおりである。この場合において、次の①～③に当てはまる金額として正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。

A牧場 育成牛一覧表

No.	取得日	前期繰越額	育成費振替高	成熟した生物	次期繰越
015	H30年5月5日	931,500円	(各自推定)	( ① )	(各自推定)
016	R1年2月3日	84,900円	(各自推定)	(各自推定)	(各自推定)
017	R2年11月15日	0円	(各自推定)	(各自推定)	(各自推定)
018	R3年1月10日	0円	(各自推定)	(各自推定)	(各自推定)
合計		1,016,400円	( ② )	(各自推定)	( ③ )

- 5/31 育成牛No.015が成熟したので生物に振り替えた。なお、当期首から本日までにNo.015の育成に要した飼料等の額の合計額は95,200円であった。
- 11/15 出生した牛No.017を搾乳牛として育成することとした。
- 1/10 出生した牛No.018を搾乳牛として育成することにした。
- 3/31 決算につき、当期中に育成牛の育成に要した飼料等の額を集計したところ、No.016に459,200円、No.017に243,800円、No.018に131,400円であった。

**【選択肢】**

	①	②	③
1	1,026,700円	834,400円	919,300円
2	931,500円	834,400円	375,200円
3	1,026,700円	929,600円	919,300円
4	931,500円	834,400円	919,300円
5	1,026,700円	929,600円	375,200円

**問題 13**

次の所有権移転ファイナンス・リース取引に関する【資料】に基づいて、X6年3月31日における以下の【仕訳】の(①)～(③)にあてはまる数値を、下記の【数値群】から選んで完成させ、下記1～5のうちから、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。なお、計算上生じる端数は円未満を四捨五入し、過不足は最終年度の利息で調整するものとする。(決算年1回、決算日3月31日)

**【資料】**

- (1) 解約不能のリース期間：5年
- (2) リース取引開始日：X4年4月1日
- (3) リース料：月額 5,000円 (各年3月31日に1年分60,000円を現金で支払う)  
総額 300,000円
- (4) 貸手の購入価額：277,750円 (借手においても明らかである)
- (5) 貸手の計算利率：年2.625% (借手においても明らかである)
- (6) リース物件の経済的耐用年数：6年
- (7) 借手の減価償却方法：定額法 (償却率：0.167、残存価額：ゼロ)

**【仕訳】**

(借) リース債務 ( ① ) (貸) 現金 60,000  
 支払利息 ( ② )  
 (借) 減価償却費 ( ③ ) (貸) 減価償却累計額 ( ③ )

**【数値群】**

ア 54,093      イ 52,709      ウ 5,907  
 エ 7,291      オ 46,384      カ 50,100

**【選択肢】**

	①	②	③
1	ア	ウ	オ
2	ア	ウ	カ
3	ア	エ	オ
4	イ	エ	カ
5	イ	エ	オ

**問題 14**

次の①～③の【勘定科目】について、【勘定科目の定義】、【損益計算書の区分】の正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。なお、【損益計算書の区分】は同じものを何度使用してもよいものとする。

**【勘定科目】**

- ① 作付助成収入      ② 価格補填収入      ③ 国庫補助金収入

**【勘定科目の定義】**

- ア 過年度の農畜産物の価格下落等に対する補填金  
イ 収穫共済など棚卸資産に対する共済金・保険金  
ウ 農畜産物の価格差交付金、価格安定基金の補填金  
エ 固定資産の取得のため交付された補助金  
オ 作付面積を基準に交付される交付金等

**【損益計算書の区分】**

- A 営業収益（売上高）      B 営業外収益      C 特別利益

**【選択肢】**

- |    |   |     |   |     |   |     |
|----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1. | ① | オ、B | ② | ア、A | ③ | エ、B |
| 2. | ① | オ、B | ② | ウ、A | ③ | エ、C |
| 3. | ① | オ、A | ② | ウ、A | ③ | エ、B |
| 4. | ① | オ、A | ② | ウ、A | ③ | エ、C |
| 5. | ① | オ、A | ② | ア、A | ③ | エ、B |

**問題 15**

次の資料をもとに、期末の未払法人税等の計上をする場合の正しい仕訳の番号を一つ選びなさい。

法人税等の中間納付額	200,000 円
法人税等の年税額	530,000 円
中間納付時の仕訳	
(借) 仮払法人税等	200,000
(貸) 普通預金	200,000

**【選択肢】**

- |    |     |                  |         |     |        |         |
|----|-----|------------------|---------|-----|--------|---------|
| 1. | (借) | 法人税、住民税<br>及び事業税 | 330,000 | (貸) | 未払法人税等 | 330,000 |
| 2. | (借) | 仮払法人税等           | 330,000 | (貸) | 未払法人税等 | 330,000 |
| 3. | (借) | 未払法人税等           | 330,000 | (貸) | 普通預金   | 330,000 |
| 4. | (借) | 法人税、住民税<br>及び事業税 | 530,000 | (貸) | 仮払法人税等 | 200,000 |
|    |     |                  |         |     | 未払法人税等 | 330,000 |
| 5. | (借) | 仮払法人税等           | 530,000 | (貸) | 未払法人税等 | 530,000 |

**問題 16** 次の資料に基づいて、大原農事組合法人の剰余金処分案の空欄（①）にあてはまる金額を計算し、下記の選択肢の中から正しい番号を一つ選びなさい。

X3年5月23日の定時総会において、繰越利益剰余金を財源とした剰余金の配当等が次の通り決定している。なお、当期剰余金は3,950,000円であり、前期繰越剰余金は1,530,000円であった。

[決定した事項]

- |                   |            |
|-------------------|------------|
| 1. 利益準備金の積立額      | 395,000円   |
| 2. 従事分量配当金        | 1,800,000円 |
| 3. 農業経営基盤強化準備金積立額 | 1,500,000円 |

剰余金処分案

大原農事組合法人

自 X2年4月1日  
至 X3年3月31日 (単位：円)

【当期未処分剰余金】

当期剰余金	( )	
前期繰越剰余金	<u>( )</u>	( )

【剰余金処分額】

利益準備金	( )	
任意積立金		
農業経営基盤強化準備金	<u>( )</u>	( )
配当金		
従事分量配当金	<u>( )</u>	( )
		<u>( )</u>

【次期繰越剰余金】

( ① )

【選択肢】

1. -1,275,000    2. 1,785,000    3. 2,180,000    4. 6,115,000    5. 9,175,000

**問題 17**

次の取引における仕訳の①～③にあてはまる勘定科目または金額の組み合わせとして正しいものの番号を一つ選びなさい。

1. X1 期中に収入保険に加入することとし、保険料 44,000 円、積立金 225,000 円、合計 269,000 円について普通預金から支払った。

(借) ( ① ) 44,000 (貸) 普通預金 269,000  
 経営保険積立金 225,000

2. X1 期の決算において、上記 1. で計上した ( ① ) につき、前払費用勘定に振り替えた。

(借) 前払費用 44,000 (貸) ( ① ) 44,000

3. X2 期の期首において、上記 2. に関する再振替仕訳を行った。

(借) ( ① ) 44,000 (貸) 前払費用 44,000

4. X2 期につき、基準収入に対して 50%の減収となった。そこで、収入保険の保険金等の受領見込額を見積計算したところ、その額は 1,575,000 円 (内訳：収入保険の保険金 900,000 円、国庫補助相当分の特約補填金 675,000 円) となった。

(借) 未決算 ( ② ) (貸) ( ③ ) ( ② )

5. 収入保険の保険金等の請求手続を行った。

(借) 未収入金 ( ② ) (貸) 未決算 ( ② )

6. 上記 5. で請求した収入保険につき、保険金等 1,575,000 円 (内訳：収入保険の保険金 900,000 円、国庫補助相当分の特約補填金 675,000 円) 及び経営保険積立金の払戻金 225,000 円が普通預金口座に入金となった。

(借) 普通預金 (各自推定) (貸) 未収入金 ( ② )  
 経営保険積立金 225,000

**【選択肢】**

- |              |             |            |
|--------------|-------------|------------|
| 1. ① 収入保険積立金 | ② 1,575,000 | ③ 経営安定補填収入 |
| 2. ① 共済掛金    | ② 900,000   | ③ 収入保険補填収入 |
| 3. ① 収入保険積立金 | ② 1,575,000 | ③ 収入保険補填収入 |
| 4. ① 共済掛金    | ② 1,575,000 | ③ 収入保険補填収入 |
| 5. ① 収入保険積立金 | ② 900,000   | ③ 経営安定補填収入 |

問題 18～25

野菜生産と酪農業を経営するA株式会社のR3年1月1日からR3年12月31日までの会計期間について、次の〔資料1〕及び〔資料2〕に基づいて、以下の設問に答えなさい。なお、当社は原価計算制度を採用していない。

〔資料1〕決算整理前残高試算表

残 高 試 算 表		
A株式会社	R3年12月31日	(単位:円)
369,210	現金	
7,804,459	普通預金	
2,180,618	売掛金	
568,418	原材料	
1,981,450	仕掛品	
17,890,118	建物	
8,320,424	機械装置	
525,621	器具備品	
2,462,581	生物	
4,210,110	土地	
86,400	株式交付費	
	買掛金	798,451
	預り金	78,443
	仮受金	323,000
	長期借入金	12,450,000
	農業経営基盤強化準備金	3,850,000
	資本金	9,000,000
	繰越利益剰余金	14,682,569
	野菜売上高	7,820,335
	生乳売上高	15,620,118
	価格補填収入	2,016,540
451,114	種苗費	
865,451	肥料費	
6,121,116	飼料費	
5,435,567	賃金手当	
814,335	動力光熱費	
302,118	共済掛金	
5,640,000	役員報酬	
178,920	事務用品費	
318,451	通信費	
	受取利息	318
<del>113,293</del> 113,293	支払利息	
66,639,774		66,639,774

〔資料2〕決算整理事項

(1) 棚卸資産の期末棚卸の状況は、以下のとおりである。棚卸資産の決算整理は、総額法による。

品目	数量	単価
飼料X	80 袋	3,380 円／袋
肥料Y	55 袋	4,580 円／袋

なお、期末における未収穫の野菜の評価額は 1,680,400 円、肥育牛の評価額は 158,400 円であった。

- (2) 当期において農業用トラクター 6,950,000 円を取得したので、機械装置に計上した（適正に処理済）。これに伴い、農業経営基盤強化準備金を全額取り崩し、直接減額方式により 3,850,000 円の圧縮記帳を行う。
- (3) 作付助成の交付金として 470,000 円支払われる旨の通知を R3 年 12 月 20 日に受け取り、R4 年 1 月 10 日に入金になった。決算において、当期の収入として計上する。
- (4) 株式交付費は、当期 6 月 1 日に増資をした際に発生したもので、新株発行後の 3 年間で月割償却している。
- (5) 当期 8 月 31 日に搾乳牛を 323,000 円で売却し現金を受け取ったが、会計処理の方法がわからなかったため、仮受金として処理している。この搾乳牛の取得価額は 516,000 円、期首時点における減価償却累計額は 202,000 円である。減価償却費は、耐用年数 4 年、償却率 0.250、（残存価額なし）の定額法により計算し、記帳方法は直接法とする。
- (6) 建物、機械装置、器具備品、生物の減価償却費は、（5）を除きそれぞれ 1,165,000 円、1,861,800 円、218,200 円、654,000 円である。記帳方法は、直接法とする。
- (7) 減価償却費のうち、製造原価に含めるべき金額は、2,334,000 円である。
- (8) 決算において、法人税等の年税額が 426,000 円と確定した。中間納付額は 0 円である。

製造原価報告書

A株式会社 自 R3 年 1 月 1 日 至 R3 年 12 月 31 日 (単位：円)

I 直接材料費

期首材料棚卸高	( )	
種 苗 費	( )	
肥 料 費	( )	
飼 料 費	( )	
計	( )	
期末材料棚卸高	( )	( )

II 直接労務費

賃 金 手 当	( )	
---------	-----	--

III 直接経費

動力光熱費	( )	
共 済 掛 金	( )	
( )	( )	( ア )
当期総製造費用	( )	
期首仕掛品棚卸高	( )	
計	( )	
期末仕掛品棚卸高	( )	
当期製品製造原価	( )	( イ )

**問題 18** 上掲の製造原価報告書の空欄 ( ア ) を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 3,450,453    2. 3,536,453    3. 5,015,453    4. 8,886,020    5. 8,926,453

**問題 19** 上掲の製造原価報告書の空欄 ( イ ) を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 16,134,933    2. 16,227,169    3. 16,420,233    4. 16,512,469    5. 18,077,469

損益計算書

A株式会社	自 R3 年 1 月 1 日	至 R3 年 12 月 31 日	(単位：円)
I 売上高			
1. 売上高	( )		
2. ( )	( )		
3. (ウ)	(エ)		( )
II 売上原価			
1. 当期製品製造原価	( )		
2. ( )	(オ)		( )
売上総利益			( )
III 販売費及び一般管理費			
1. 役員報酬	5,640,000		
2. 事務用品費	( )		
3. 通信費	( )		
4. 減価償却費	( )		( )
営業利益			( )
IV 営業外利益			
1. 受取利息	( )		
2. (カ)	(キ)		( )
V 営業外費用			
1. 支払利息	( )		
2. (ク)	(ケ)		( )
経常利益			( )
VI 特別利益			
1. ( )			( )
VII 特別損失			
1. (コ)			(サ)
税引前当期純利益			( )
(シ)			(ス)
当期純利益			( )

**問題 20** 上掲の損益計算書の空欄 (エ) と (キ) を計算し、(ウ)、(エ)、(カ)、(キ) の正しい表示科目または金額の組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

- |               |             |            |             |
|---------------|-------------|------------|-------------|
| 1. ウ 価格補填収入   | エ 2,016,540 | カ 経営安定補填収入 | キ 470,000   |
| 2. ウ 経営安定補填収入 | エ 2,016,540 | カ 作付助成収入   | キ 470,000   |
| 3. ウ 価格補填収入   | エ 2,016,540 | カ 作付助成収入   | キ 470,000   |
| 4. ウ 作付助成収入   | エ 470,000   | カ 価格補填収入   | キ 2,016,540 |
| 5. ウ 作付助成収入   | エ 470,000   | カ 経営安定補填収入 | キ 2,016,540 |



**問題 23** 上掲の貸借対照表の空欄（セ）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. 12,915,387    2. 13,015,977    3. 13,103,955    4. 13,185,387    5. 13,573,955

**問題 24** 上掲の貸借対照表の空欄（ソ）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

1. 25,143,854    2. 25,336,854    3. 25,345,854    4. 25,431,854    5. 25,659,854

**問題 25** 上掲の損益計算書の空欄（シ）（ス）、貸借対照表の空欄（タ）（チ）について、正しい表示科目または金額の組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

**【選択肢】**

- |    |          |           |          |           |
|----|----------|-----------|----------|-----------|
| 1. | シ 法人税等   | ス 0       | タ 未払法人税等 | チ 0       |
| 2. | シ 仮払法人税等 | ス 426,000 | タ 法人税等   | チ 426,000 |
| 3. | シ 仮払法人税等 | ス 426,000 | タ 未払法人税等 | チ 426,000 |
| 4. | シ 法人税等   | ス 426,000 | タ 未払法人税等 | チ 426,000 |
| 5. | シ 未払法人税等 | ス 426,000 | タ 法人税等   | チ 426,000 |